

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらりは一と妻田(単位2)		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		2026年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもを迎え入れる為の環境設定をしっかりと行っています。	事業所内だけではなく、施設周辺の掃除も取り組み、子ども達が安全で安心して気持ちよく過ごせる環境づくりを行っている。	地域の学校に登下校する子どもたちが安全に過ごせるよう、周辺の清掃活動だけでなく、挨拶を交わすなど日常的な交流を大切にしている。
2	保護者と子どもの事を共有する事が出来ている。	面談だけではなく、メインプログラムを見学して頂いている。	見学が難しい保護者様に対しては、面談の際にお子さまの日々の様子を丁寧にお伝えし、活動内容や成長の様子をしっかりと共有できるよう努めています
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流がない	イベント等で保護者同士が顔を合わせる場があっても悩み相談、情報共有までは至っていない。茶話会等、ゆっくり話のできる場を設定していない。	定期的な茶話会等の実施により保護者同士の交流を図っていく。
2	地域との交流・連携を図ること	環境の変化への対応が難しいお子さんもいる為、地域との交流が少なくなっている。	個々の子どもの様子によって活動場所を整える等をしながら地域との交流も図るようにしていく
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 きらりはーと妻田(単位2)

令和8年 2月 28

公表日 日

令和8年 2月 28

利用児童数 日

回収数 10

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	0	0	1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9	0	0	1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	0	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	1	0	1		
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	1	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	1	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	0	0	0		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	0	5		
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	0	1	3		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	10	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	0	0	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	0	0	0		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	0	5			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	0	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	1	0	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	0	0	1		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	0	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	0	0	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	0	0	1		
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	0	0	0	はい、今の支援にはとても感謝しています。今は児童発達支援で利用させていただいていますがこのまま放課後デイを利用する予定でしたがやっぱりほほほほ入れられる確率がゼロと言われてしまいました。環境を変えるのが難しい子供でやっとなしく通えてるのにもたせろスタートになるむしろ、児童から放課後デイに持ち上げられる所を探さなければと真う。ショックが大変です。	グループ内の放課後等デイサービスの空き状況について、適宜保護者にお伝えしています。お子さまの成長や今後の生活環境を把握え、放課後等デイサービスの利用をご検討いただく際には、相談支援事業所などの専門機関と連携しながら促していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	きらりはーと妻田(単位2)		公表日	令和8年 2月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		運動スペースを確保している	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		5名体制で行っている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		分りやすい環境設定を心がけている。その都度必要に応じて環境設定を変え対応している。バリアフリー化では、建築上出来ない箇所がある	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		毎朝清掃・消毒の時間を確保することをマニュアル化して実施し、また利用する子どもに合わせて環境整備を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		相談室等を整備し、クールダウンの部屋に使用するなど子どもに様子に合わせた環境作りを行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		日々支援ミーティング実施や振り返りを行っている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		出来る限り改善するよう心掛け、保護者とコミュニケーションを図るよう心がけていく	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		エリアマネージャー等が職員の意見を聞き取りしながら業務改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		第三者評価を実施していない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		社内外問わず、研修に参加している 月1回事業所全体会議また年4回の社内研修を実施している	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		各事業所での療育会議や社内全体で療育内容の検討を行い、偏りのないプログラムの検討や個々に合ったプログラム内容を考えている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		見学・面談日を設けながら保護者・本人のニーズを聞き取り、支援プランに反映させている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		毎日ミーティング時間を設け、職員全員が参画しながらプランを検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		支援計画の内容の確認をし共有しながら関わるよう心がけている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		遠城寺式や独自の運動評価を使用しグラフにする事で見やすくしている	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		それぞれの項目に対しての目標、支援内容を立てプランを作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		児童発達支援管理者を中心に行っている	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。			メインプログラム、療育活動(四季や行事ごとを感じられる)年間プログラムを作成し、固定化しないようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。			プログラムが中心なので個別活動がなかなか出来ていないが、子供の個々の状態に合わせた対応を心がけている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。			必ず、授業前にプログラム内容の確認や子どもの様子、送迎時の確認などを全員で共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。			授業後は共有すべき内容の確認、支援方法に関する振り返り等、全員が気づいたことを話し合える環境を工夫している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。			毎日支援記録をとり、ミーティングにて共有・改善を実施している	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。			半年に1回は必ず行うとともに必要時は3か月または1か月に1回行っている。必要に応じて、随時保護者からの聞き取りを行っている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。			児童発達支援管理者を中心に参加している。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			必要時、ケース会議等を設定しながら関係機関との情報共有または支援方法の共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			情報共有はしているが、移行支援は行っていない	
	28	(28~30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			今のところ活動を通しての交流はない		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。			連絡帳や送迎時に情報共有をしている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。			母子分離で行っている事もあり、出来ているとは限らない		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。			契約時必ず行っている		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。			見学・面談を通して保護者・本人の意向を聞き取りプランに反映させている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。			プラン内容を一緒に確認しながら同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。			できる限り対応する	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。				
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。			できる限り対応している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。			年間プログラムの配布実施 週に1度のFacebook・Instagramの更新をしている	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。			鍵付き書庫に保管している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。			分りやすく、的確に心がけている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。			行っていない	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。			注意喚起の書面を配布しているが、想定訓練はできていない	地震・火事等の訓練と共に事業所で想定できる訓練を実施していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。			年1回訓練を実施している	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。			保護者からの聞き取りを行い、服薬の種類、てんかん児童が直ぐに確認ができるよう一覧表を作成している。定期的に服薬の確認をしていく	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			アレルギー児が分るよう、お皿の色、形を変えている。基本アレルギー児が食べられる食材を使用している。医療機関でエビペン研修を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。				
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。			避難場所(伝言ダイヤルの使用方法)や引き渡し者の確認等を契約時に保護者と確認している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。			日々記録を残し、今後の対策を考え対応している。また月に一度振り返る事で更なる意識作りを心がけている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。			年1回必ず研修を実施している	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。			説明は実施しているが、対象児童がいない為、計画には記載していない		